

北運河および北前船の歴史的価値の観光資源化 プロジェクト代表者: 北川 泰治郎

【プロジェクトの概要】

本プロジェクトは小樽の成立に大きな役割を果たし、貴重な歴史的価値を持ちながら、未だ観光資源として十分に活用されていない北前船について、北運河との密接な関係に着目して調査研究を実施し、観光客増加と滞在時間の延長に寄与する小樽の新たな観光資源の開発とブランド化を目指すものです。

【プロジェクトの主な活動実績】

●北前船に関する調査

小樽、岩内などでは北前船の関係者に対する聞き取り調査や郷土館などへの見学を実施してきました。また富山県では富岩運河、まちなみ保存地区の建物(北陸銀行)、廻船問屋森家などへの視察や伏木北前船資料館の資料(小樽、江差などとの関連資料)を調査し、寄港地としての小樽との繋がりについて確認してきております。

●「北運河と北前船」講座の開催

小樽市を含む9機関からの後援を得て、平成26年11月から平成27年1月の間に3回シリーズで外部の講師を招聘し、北運河と北前船の歴史的価値の確認、発見と観光資源化に向けた今後の取り組みについて小樽市民の方々を中心にクロストークを交えディスカッションを行ってきました。

●デジタルアーカイブ化

歴史的価値のデジタルアーカイブ化、情報の発信基盤の構築も開始し、観光資源としての認知拡大、ブランド強化を続けられる仕組み作りを始めています。

【プロジェクトの成果】

北前船に関する調査と「北運河と北前船」講座の開催による外部の識者、市民の方々との対話を通じて、観光資源化に向けた課題を探ることができました。地元市民と歴史的価値を共有していくことや観光客への伝達、そしてその価値を踏まえた北運河地域の魅力創造が重要であるとの認識に至りました。

